

令和6年度 四十万小学校スクールフォーラム

令和6年1月28日

1 教育目標

「自ら学び 心豊かで たくましく生きる 子どもの育成」

2 目指す学校像

- ・児童一人一人が安心して通うことのできる学校
- ・地域住民や保護者が通わせたいと思う学校
- ・児童や保護者、教職員が信頼と誇りを持つことができる学校

3 目指す児童像

「人と関わり、自ら学ぶ子（知）」

- ・自ら課題を見出し、主体的に課題解決しようとする子
- ・自分の考えを持ち、相手意識を持ちながら、表現したり、聴いたりしたりしようとする子
- ・他との関わり合いを通して学び合い、考えをより広げたり深めたりしようとする子
- ・学んだことをふりかえり、次につなげ、よりよい学びをつくろうとする子

「自分を、人を大切に作る子（徳）」

- ・思いやりの心を持ち、それぞれの立場や気持ちを考えて行動しようとする子
- ・挨拶やお礼などを、しっかりと行うことができる子
- ・美しいものや立派な行いなどを、素直に認めることができる子
- ・きまりやルールの意味を理解し、それを守ろうとする子

「人のために自ら行動する子（体）」

- ・目標に向かって、相手のことを考えながら、進んで物事に取り組もうとする子
- ・あきらめず、粘り強く取り組み、最後までやり抜く子
- ・健康や体力に関心を持ち、自ら健康な体をつくろうとする子

4 各指導部の成果と課題

(1) 学習部

① 学校研究「生き生きと学び合う子をめざして」について

子ども自身が学びを実感できるようにするために、みんなで学び合い、そして考えを深め合う場では、聴く視点を示して相手意識を持ちながら、表現したり聴いたりすることを大切にしてきた。その結果、授業の中で児童たちが関わり合いを通して学び合うという姿勢が育ってきた。児童アンケートでも、「友達の考えを聴いて自分の考えが深まったり広がったりしましたか？」の肯定的回答が、7月が82.3%、12月が83.4%と8割を越える結果となった。また、授業の中で、ペアやグループで考えを交流する場を設定し、相手に分かるように伝えたり、比べて聴いたりする機会を多く設けた。しかし、児童アンケートの「自分の考えを話すことができましたか？」の肯定的回答が75.9%（7月）から73.3%（12月）に減っている。そこで、引き続き児童が自信を持って話すことができるような手立てを工夫していく。

② 学力向上のための取り組みについて

基礎的な知識技能の定着を図るために、朝の「さわやかタイム」を活用し、漢字や計算を中心に取り組んできた。時には端末を活用したり、苦手としている内容を選んで行ったりと実態に合わせて取り組むことができた。また、基礎的な文章を書く力をつけるために、書かせ方を工夫してきた。しかし、学力調査の結果からも、条件に合わせて書くことに課題が見られるので、今後も書く力が身につくように指導を続けていく。

(2) 生徒指導部

① 「相手の思いや考えを分かろうと聴く」ことに関する取り組みについて

聴く力として相手の話を共感的に聴くための態度を5つの観点で示し、毎月各クラスで一つめあてを設定して月末に振り返りを行ってきた。振り返りにより、できたこととできなかったことを整理し、次の目標を設定することを続けてきた。そのため、子どもたちが自分たちの達成具合が分かるだけでなく、教師も課題に焦点を当てて取り組むことができた。12月末の児童アンケート「先生や友達の話をしっかりと聴くことができましたか」では、90%の児童ができていると回答した。話を聴くことが相手を大切にすることに繋がると指導し続けた結果だといえる。今後も児童が共感的に聴こうとする態度を育てていく。

②「気持ちのよいあいさつ」に関する取組について

運営委員会がよいあいさつを日々のあいさつ運動で示してくれたことにより、あいさつ運動の輪が少しずつ広がった。強化月間として、隔月に各学級で「先に」「相手を見て」をめあてにあいさつを積極的にする取組を行った。しかし、取組中は意識してあいさつができていたが、取組が終わるとその意識も薄らいでしまうことが課題として挙げられる。取組中だけでなく「いつでも」あいさつが続けられるよう指導をしていきたい。また、今年度、運営委員会の児童があいさつ缶バッジのデザインを手がけてくれた。これからのあいさつの取り組みの意欲付けとして効果的に活用していく。

③「自分の人の良いところを見つける」ことに関する取組について

年間を通して帰りの会で「今日のすてきな人」等を見つけて紹介する取組を行ってきた。友達の良いところを毎日知る機会を設けたことで、温かい雰囲気作りにもつながった。学級のよいところ見つけやふわふわ言葉見つけでは、各クラスから出されたものを職員室前に掲示し、全校に広めることができた。今後も学校全体で、1人1人がかけがえのない大切な存在だと自覚し、認め、支え合える共感的な人間関係を育てていきたい。

(3) 特別活動部

①体力向上の取り組みについて

学校評価アンケートの結果から、体力作りの取組は前期・後期ともに肯定的な意見が多かった。特に後期は、「外でよく遊んだり進んでマラソンや縄跳びをしたりしたか」の児童への質問に対して学校全体で肯定的な回答が84.8%となり、「体力作りの取り組みの継続した指導を行っている」の教員への質問では、肯定的な回答が100%であった。マラソンや縄跳びなどの体育的行事・取り組みに職員一丸となって取り組むことができた。また、目標設定のしかたや、教師から児童への頑張りを認める声かけや関わりを工夫したことで、意欲をもって取り組ませることができた。

②たてわり活動・学校行事等について

6年生が中心となって遊びを考え、4年生5年生もそのサポートをすることで異学年交流による親交を深めることができた。運動会やマラソン大会など行事においてそれぞれのめあてに向かって活動を行うことができた。そして、その都度、活動をふり返ることで、児童自身ができるようになったことを実感することができた。これからも子どもたちが「やってよかったな」「力がついたな」と達成感と充実感を得られるような行事を目指していく。

5 今年度の成果と課題、来年度に向けて

(1) 学習指導

(成果)・共通実践である「丁寧な机間指導」と「聴くマグネットの活用」の全教員で取り組めたことで、お互いの考えを聴き合いながら、主体的に学習に参加する児童が増えた。

・国語科の研究授業に積極的に取り組んだことで、児童が単元を通してゴールである言語活動を意識しながら、見通しを持って学習を進めることができるようになった。

(課題)・自分の考えを持たせる場面での指導者の関わりに限りがあるため、自分なりの考えを十分に持てなかった児童が、交流場面において受け身になる姿が見られることがあった。

☆共感的に聴く力を生かしながら、すべての児童が主体的に伝え合い・聴き合いに参加できる授業づくりに取り組む。

○教師による丁寧な机間巡視に加え、ペア学習やグループ学習の導入、既習掲示の有効活用等、自分の考えを持つための支援を工夫していく。

○交流場面における聴くマグネットのさらなる有効な活用について探究していく。

(2) 生徒指導

(成果)・全教職員で積極的に認め褒める指導を大切にしてきたことに加え、児童同士で良いところを見つける活動に取り組んだことで、学校や学級における自分の居場所や、友達との絆を感じている児童が増えた。

(課題)・改善傾向にあるものの登校しぶりの児童が見られる。

☆児童の自己肯定感や自己有用感の向上を図るため、引く続き、発達支持的な生徒指導を推進し、児童の良いところを積極的に認め褒めていく。

○児童同士が日常的に認め、褒め合う活動の設定、相手を大切に思う聴き方やあいさつの充実
○風通しの良い職員室づくりに努め、報告・連絡・相談の徹底を図ることによる、いじめや不登校に対する組織的な対応と丁寧かつ継続的な支援